TIC NEWS

vol.125
2017.10

（公財）とやま国際センター
〒930-0856　富山市牛島新町5-5
インテックビル4F（タワー111）
TEL（076）444-2500
FAX（076）444-2600
E-mail：tic@tic-toyama.or.jp
URL：http://www.tic-toyama.or.jp

～とやま国際塾～

今年で16回目の開催となった“とやま国際塾”。県内の高校生、海外技術研修員、留学生などが参加し、楽しい夏の思い出となりました。

とやま国際塾

日　時：平成29年７月16日(日)～17日(月・祝)
場　所：呉羽青少年自然の家他

講師の松本ちこ氏

２日間にわたり、県内高校生を対象とした“とやま国際塾”を開催しました。

自己紹介、人間ビンゴで緊張をほぐした後は、グループに分かれ、各国出身者が準備した写真をもとに各国の紹介を聞いたり、質問したりして、会話を楽しみながら異文化に触れました。

午後からは、コンゴ人の父を持つ歌手の松本ちこ氏を講師に迎え、自分の事が大嫌いだった幼少期から、歌手として活躍する現在に至るまでのご経験等を話していただきました。ニューヨーク旅行とマイケル･ジャクソンの存在が人生の転機となったという松本さん。視野を広げることや夢を持つことの大切さ、そして“自分色”で生きることの素晴らしさを伝えるお話は、これから進路選択をしていく高校生たちの心に大きく響いたようでした。講義途中には、松本さんの人生そのものを表すかのように力強い歌声をお聞かせくださいました。その後はこの講義をふまえ、海外出身者がアドバイザーとなって、夢を叶えるための方法を考え、発表しました。

２日目は、最初に、ペーパータワーというアイスブレイクで各グループの士気を高め、JICA国際協力推進員の船木愛氏にJICAの事業や国際協力の現状とその必要性などについてお話しいただきました。その後は、青年海外協力隊としてセネガル共和国で活動された杉坂瑠利氏を講師に迎え、実際の現地からの要請に基づき、“何ができるか”をグループごとに考え発表しました。協力隊の活動を疑似体験することによって、講師の派遣国であったセネガル共和国について、また青年海外協力隊の活動について理解を深めました。さらに、スカイプを利用し、現在サモア共和国にて活動中の隊員とリアルタイムで会話する機会にも恵まれ、協力隊を身近に感じることができました。

国際交流人材バンク通訳者セミナー

テーマ『医療通訳～よきサポーターになるために知っておきたいこと～』
日　時：平成29年９月２日(土) 13：30～16：30
場　所：環日本海交流会館　大会議室
講　師：医療通訳研究会(MEDINT)代表　村松 紀子 氏

講師の村松氏

とやま国際センターでは、国際交流人材バンクに登録している方々のスキルアップを目的に、毎年通訳者セミナーを開催しています。今年度は、外国人定住者や旅行者などの増加に伴い今後もますます需要が高まるであろう医療通訳をテーマに、外国人の医療のサポートに必要な知識を学びました。

講師は、医療通訳研究会（MEDINT）の代表であり、兵庫県を拠点に日本における外国人医療の問題を「言葉と医療」の視点からとらえ、外国人が安心して医療を受けられる社会づくりに取り組んでいる村松紀子氏。はじめに、日本人と外国人の医療文化の違いや医療現場における言葉の問題、また医療通訳者に求められる資質と役割についてご講演いただきました。

医療通訳者に必要なことと言えば高い語学力がまず考えられますが、実際はそれだけではありません。言語的、文化的、社会的に異なる外国人患者と医療従事者の間に入り、双方の言葉の媒介者としてはもちろん文化の仲介者として、意思疎通を成立させる橋渡し役も担います。講義では、事前の準備や現場でメモを取る際のポイント、通訳する際に立つ位置、通訳者自身の健康管理の大切さなど、実践的な内容も織り交ぜながらお話しいただきました。

村松氏の豊富な経験に基づいた話に熱心に耳を傾けながら、医療通訳を行ううえでのルールや心構えを理解した受講生からは、セミナーを通して「実際の仕事や現場ならではのエピソードが聴けて良かった」、「現実的な問題点をさまざまな角度から説明していただき、通訳をするときの参考になった」、「医療職の立場から、まずたくさんの人が医療通訳について知ることが大切だと感じた」などの感想が寄せられました。

国際交流員より着任のご挨拶！

シャーホフ・スタニスラフ さん（ロシア）

富山県の皆様、ズドラーストヴイチ（こんにちは）！ロシアのモスクワから参りましたスタスと申します。本名はスタニスラフですが、国では職場でも家族内でもスタスと呼ばれていましたので、こちら富山県でも親しみを込めて短くスタスと呼んでいただければ幸いです。

このたび、自然豊かで、伝統文化が代々受け継がれてきた、盛んな産業を誇る富山県でロシアの国際交流員として仕事をさせていただくことになり、大変うれしく思っており、ワクワクしております。

私は2006年にモスクワ国立大学アジア・アフリカ諸国大学日本学科に入学し、2009年４月から2010年２月まで青山学院大学に交換留学生として留学し、2011年に卒業いたしました。その後、北海道の公立高校でロシア語と英語のALTとして１年間働き、帰国後は在ロシア日本大使館広報文化部で４年間、今年の７月まで翻訳・通訳、大使館SNSの運営、文化事業の実施、マスメディア対応等の仕事をさせていただきました。

日本の伝統芸能やお祭り、文学、自然、食べ物などに非常に興味がありますので、富山県の皆様に仲良くしていただいていろいろ教えていただければ嬉しいです。

私もロシアのことをどんどん紹介してまいりたいと思いますので、ご協力いただけますようよろしくお願いいたします。経済・文化・スポーツなど幅広い分野で富山県と沿海地方をはじめとするロシアとの懸け橋になれればと思っております。富山県の皆様におかれても是非とも仲良くしていただいてご協力いただけますようどうかよろしくお願いいたします。

ダーサリ・ラメーシュ さん（インド）

富山県の皆様、ナマステ。お元気ですか。

はじめまして。インドの南東部にあるアーンドラプラデーシュ州から参りましたダーサリ・ラメーシュと申します。今年の８月から自然が豊かな富山県で国際交流員として働くことができ本当に嬉しいです。

子供のころから日本と日本文化に興味があり、日本語を勉強すれば日本についてもっと深く理解できると思って、2010年にインドの英語及び外国語大学（EFL大学）に入学いたしました。大学２年生のときに短期間の交流プログラムで初めて日本に訪問して、東京と長崎に行ったことがあります。その後、大学を卒業して文部科学省の奨学金を受けて岡山大学で日本語研修生として１年間留学したこともあります。興味としてはダンスが好きで、留学したときに部活（ダンス部）にも入っていて、神戸で毎年行われる全日本高校・大学ダンスフェスティバルにも出たことがあります。

富山県に来るのは初めてですが、これからインドと日本、特にアーンドラプラデーシュ州と富山県の間の友好を深めるためにいろいろ頑張りたいと思います。富山県の自然、文化、食べ物のことをインドの人々に紹介して、インドの魅力も富山県の人々に伝えたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

災害時外国人支援ボランティアの養成

1　外国人にもわかるやさしい日本語コース

日時：平成29年７月１日(土) 15：00～16：30
場所：環日本海交流会館
講師：要門　美規 氏（日本語教育機関トヤマ・ヤポニカ）

「やさしい日本語」とは、外国人をはじめ、年配の方など誰にでも伝わるわかりやすい日本語のことです。東日本大震災や熊本・大分地震で災害情報を伝える際にも使われました。

講座では、講師による指導のもと災害時に使われる日本語を外国人にわかる「やさしい日本語」に置き換える実習を行いました。「高台→高いところ」、「危険→あぶない」、「避難所→みんなが逃げるところ」などの翻訳作業に取り組んでいただきました。

受講者からは、「やさしい日本語は普段の生活にも活用できることがよくわかった」などの意見が聞かれました。

2　多言語翻訳コース

日時：平成29年７月８日(土) 15：00～16：30
場所：富山市国際交流センター
講師：富山県国際交流員等

英語、中国語、韓国語、ロシア語、ポルトガル語の５つの言語グループに分かれて、多言語表示シート作成ツール(自治体国際化協会作成)で災害時の日本語の訳文対比を確認しながら、実際に東日本大震災時に使用された情報（公益財団法人仙台観光協会提供）を各言語に翻訳する実習を行いました。

参加者からは「実際に翻訳してみると難しいことがわかった」などの意見が聞かれました。

自治体職員等担当者コース

日時：平成29年７月27日(木) 13：30～17：00
場所：富山県農協会館
講師：田村　太郎 氏（(一財)ダイバーシティ研究所代表）
　　要門　美規 氏（日本語教育機関トヤマ・ヤポニカ）

災害発生時に、日本語が不自由な外国人住民を支援するための情報提供のポイント等を学ぶ研修会を(一財)ダイバーシティ研究所代表の田村太郎氏を講師に迎え実施しました。

外国人住民が被災した場合に必要な情報を伝える機関のひとつとして「災害時多言語支援センター」があります。研修では、講師から災害多言語支援センターの主な役割についてご説明いただいた後、受講者には、実際に避難所で使われた情報などをやさしい日本語に翻訳する実習に取組んでいただきました。

講師の田村氏

災害時外国人支援のための防災訓練事業

災害時に外国人は言語・習慣の違いや災害経験の少なさ等から災害弱者として特別な対応が必要となります。とやま国際センターでは災害時の外国人支援のための防災訓練事業に取り組んでいます。今年度は福井県で北陸3県合同の広域連携訓練も行いました。

日頃の備え、連携を深め、災害に強い富山を目指します。

講師の土井氏

災害時の外国人支援のための広域連携防災研修、富山県総合防災訓練

災害時の外国人支援のための広域連携防災研修 in 福井県

日時：平成29年７月29日(土) 11：00～15：30
場所：福井県国際交流協会
講師：土井　佳彦 氏
　　（NPO法人多文化共生リソースセンター東海代表理事）
　　モハマド・シャイリル 氏
　　（越前町教育委員会学校教育課）

大規模災害が発生した場合、県境を越えた災害支援活動の重要性が指摘されています。今回、福井県で大地震が発生したとの想定で富山県、石川県から災害ボランティアを派遣しての災害多言語支援センターの設置・運営訓練を(公財)福井県国際交流協会、(公財)石川県国際交流協会と連携して実施しました。

訓練に先立ち、土井氏から「外国人支援の概況と多言語支援について」、シャイリル氏からは「イスラム教徒と災害時対応」というテーマで講義を受けました。

参加者からは、「近くの外国人を守るような役割が担えるように、また勉強していきたい」、「模擬訓練が大変勉強になった」などの意見が聞かれました。

富山県総合防災訓練

日時：平成29年９月30日(土)　９：00～12：00
場所：富山市民球場アルペンスタジアム
講師：丹下　厚史 氏
　　((公財)名古屋国際センター総務課主幹)

「呉羽断層帯を震源とするマグニチュード7.4の地震が発生し、富山市で震度７を観測し、建物の倒壊、ライフライン施設の被害等が発生した」という災害を想定した富山県総合防災訓練において、災害多言語支援センターの設置・運営の訓練を実施しました。

とやま国際センターと富山市民国際交流協会の災害ボランティアが災害情報の翻訳訓練や避難所巡回によるニーズ聞き取り訓練等を行いました。

参加者からは、「普段から心がけていることが大切だと実感した」などの感想が寄せられました。

2017年度JICAボランティア秋募集が始まります！

下記の日程で「体験談＆説明会」を実施します。事業概要、応募要領説明、経験者との交流のほか、個別相談も行います（ドリンクサービス付き）。どなたでもお気軽にお越しください！高校生、大学生も大歓迎です！

※予約･参加費は不要､時間内は出入り自由です。

募集期間：平成29年９月29日(金)～11月１日(水)

開催地	開催日	開催時間	会　　場
富山市	９月30日(土)	13：30～16：00	インテックビル タワー111 ３階スカイホール (富山市牛島新町５－５)
高岡市	10月11日(水)	18：30～20：30	ウィング・ウィング高岡 研修室502 (高岡市末広町１－７)

●９月30日(土)は、映画“ポバティー・インク～あなたの寄付の不都合な真実～”無料上映会を行います。
●10月11日(水)は、現役ボランティアとスカイプ交流＆協力隊経験者と座談会を行います。

募集ボランティア　青年海外協力隊／日系社会青年ボランティア（20歳～39歳対象）
シニア海外ボランティア／日系社会シニア海外ボランティア（40歳～69歳対象）

職種　農林水産、加工、土木建築、保健衛生、教育文化、社会福祉、観光・商業、スポーツなど多種

【応募に関するお問い合わせ・相談窓口】
・JICA富山県デスク　電話：076-464-6491　E-mail:jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp
＊JICAボランティアウェブサイトはコチラ　→　http://www.jica.go.jp/volunteer/

JICAボランティアからの現地リポート

今回はラオスから届いた青年海外協力隊員　長田 光司 さんからのお便りをご紹介します。

サバイディー！（こんにちは！）、皆さん。私は今、東南アジアのラオスという国で青年海外協力隊として活動しています。ラオスは雄大なメコン川が流れるとても自然豊かな国で、また、国民の多くが仏教を信じており、町を少し歩けばキンキラで大きなお寺をいくつも観ることができます。

そんなラオスで私は健康教育と環境教育を合わせた「エコヘルス教育」という新しい教科を教えています。自然豊かなラオスですが、近年、急速な発展に伴って、これまでにはなかったような公害問題などの新しい健康問題が出現してきています。そのため、今後、ラオスの人々が「エコヘルス教育」を通して健康や環境に関する知識や意識を高めていくことで、ラオスが豊かな自然を残しつつ持続可能な発展をしていってくれることを願いながら、ラオスの教員養成校の先生に対して「エコヘルス教育」の指導方法を教える研修会を開催したり、小学校に行って健康や環境に関する授業をするといった活動に取り組んでいます。

長田　光司さん
派 遣 国：ラオス
職　　種：公衆衛生
派遣期間：2016年7月～2018年7月
配 属 先：ラオス国立大学

Voices from the world

～フランス リヨン～

世界の富山ファンからのメッセージ

シルヴァン ブランシャール さん

Q．今、どんなお仕事をされていますか？

A．私はフランスのリヨンに住み、公務員、法律専門家として働いています。

Q．近況について教えてください。

A．毎年リヨンで開催されるリュミエール映画祭が10月から始まります。リュミエール兄弟は「映画の父」と呼ばれ、初めて映画を発明し撮影した街がこのリヨンです。

リヨンには多くの日系企業も進出しており、マルセイユと共にパリに次いで大きな都市です。19世紀に絹織物産業で栄えたリヨンは「絹の街」としても知られ、古くから日本と絹貿易が行われていました。またグルメの街としても有名で、３つ星シェフのポール・ボキューズは日本でも有名ではないでしょうか？

Q．富山とはどんな結びつきがありますか？

A．富山に出会ったのは、私が初めて日本に行った2012年の夏、富山市出身のパートナーに付き添ってのことでした。それからは年に一度の割合で富山にやってきています。来るたびに、この豊かな、そして驚くべき自然に感動します。富山に来るまでは、海沿いの市場で白エビやホタルイカを味わったり、海からたった１時間の場所に「熊注意」という看板を見る機会などはありませんでした。五箇山の美しい山並み、雨晴海岸でカニを採る小さな“子供漁師”、そして雪の立山連峰を背景に波を待つサーファー……などといった景色に出会えるということも知りませんでした。この素晴らしい風景の源には豊かな水の存在があげられるでしょう。山々に見られる湖、峡谷や滝、そして大きな７つの川、稲作の田んぼの水路、もちろん忘れてはいけないのは富山湾の水深の深さとそれがもたらす豊かさ、そして温泉もですね。この自然がもたらす海や山の幸の豊かさや、古くから伝わる民謡や、実際に体験できる和紙作りなどの伝統工芸などには驚かされるばかりです。

Q．最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

A．まだまだ発見する事がたくさんある富山。その魅力を発見するために次に富山を訪れるのをとても楽しみにしています。

こんな“国際交流”やっています！

“南砺市友好交流 in 綱引”

南砺市綱引協会（南砺市）

～TICから助成した事業をご紹介します～

南砺市綱引協会は誰でも気軽に参加できるスポーツとしての綱引の普及および技術の向上と、会員相互の親睦を図り、もって心身の健全な発展に寄与することを目的に平成16年に発足しました。今まで台湾、マカオ、ベトナム、マレーシアなど広く諸外国において綱引の指導・普及に努めるなど、国際交流に貢献してきました。

平成29年４月18日から４月26日までネパールのツクチェ村を訪問し、日本から持参したロープを寄贈し、綱引競技の国際ルールの指導と審判の育成、村民300名が参加しての綱引大会を行い、大いに盛り上がりました。

南砺市（旧利賀村）とツクチェ村は特産であるソバを通じて長きに渡って交流活動を行ってきましたが、来年はその友好交流が30年を迎えるということで、これからはスポーツの分野でもさらに交流が深まることが期待されます。

作ってみよう！韓国料理

치즈닭갈비 チーズタッカルビ

韓国出身
ユ セビョルさん
お薦め料理！

最近日本でも人気になっている韓国料理チーズタッカルビを紹介します。甘辛い味で柔らかい鶏肉の食感がとてもいいです。タッカルビは韓国江原道の春川という地域の名物鶏肉料理です。

～作り方～

1. 鶏肉を食べやすい大きさに切る。
2. ボウルに鶏肉を入れ、下味調味料を加えて手でもみ込む。
3. 野菜を食べやすい大きさに切る。
4. フライパンを熱し、鶏肉に焼き目をつける。
5. 野菜、トックを加え、具材が柔らかくなるまで炒める。ザク切りした えごまの葉をちらす。
6. ピザ用チーズを上にかけ、できあがり。

～材料～（4人分）

鶏もも肉…… 500g
さつまいも…… 1本
にんじん…… 1/2本
たまねぎ…… 1コ
キャベツ…… 1/4コ
トック（韓国餅）…… 100g
えごまの葉…… 10枚
ピザ用チーズ……適宜

【下味調味料】

コチュジャン、しょうゆ、砂糖、みりん
…… 各100ml
おろしニンニク…… 大さじ1＋1/2
粉とうがらし、ごま油…… 各大さじ1
こしょう……適宜

TICからのお知らせ

これからの行事予定

とやま外国人活躍セミナー

第３回　10月14日（土）
「もっと聞きたい！ とやまで活躍する外国人の話」
第４回　11月18日（土）
「誤解しやすい日本の常識・マナー」
第５回以降のセミナーは、2019年まで毎月予定しています。
15：00～16：30　（公財）とやま国際センター 研修室

外国人のための日本語ボランティア養成講座
【黒部会場】

11月11日（土）～12月16日（土）10：00～12：00　全５回
黒部市国際文化センター コラーレ
講師：日本語教育機関　トヤマ・ヤポニカ講師

国際交流フェスティバル

11月12日（日）10：00～16：30　富山駅・CiCビル
ワールドステージ、ロシア語スピーチコンテスト等

アセアン講座　第２回　～タイ～

11月19日（日）13：30～15：00
（公財）とやま国際センター 研修室
「グローバル時代のタイと日本」
講師：東京外国語大学名誉教授　宇戸　清治 氏

日本海学講座

11月25日（土）14：00～15：30
高岡市生涯学習センター 503研修室
「日本海地域の栽培漁業
－キジハタやアカムツなどを事例として－」
講師：富山県水産研究所 研究員　町　敬介 氏

国旗、民族衣装貸し出します！

世界各国の国旗、民族衣装、ユニセフ視聴覚教材の貸し出しを行っています。詳細はホームページでご覧下さい！

国際交流ひろば

富山県国際交流員が、それぞれの文化を楽しくご紹介します！

第１回　10月７日（土）「移民大国アメリカの食文化」
アメリカの歴史と多様性の紹介、タコス試食体験
第２回　10月28日（土）「ブラジルのスイーツ紹介」
ブラジルのスイーツについて、ブリガデイロ作り
第３回　11月４日（土）「韓国のお化粧」
韓国と日本のメイクアップ比較と韓国芸能人のお化粧体験
第４回　11月25日（土）「漢服文化の紹介」
漢服文化の紹介と漢服試着
第５回　12月２日（土）「ロシアで人気のテーブルゲーム」
紙１枚とペン１本で楽しめるテーブルゲームの紹介
第６回　１月13日（土）「インド文化の紹介」
インドの歴史・文化の紹介、インド映画とダンスなど

14：00～16：00　環日本海交流会館　定員20名
詳しくはホームページをご覧ください。

（公財）とやま国際センター賛助会員募集及び寄付のお願い

公益財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費（１口）個人会員　3,000円
団体会員　30,000円

賛助会員、その他のご寄付について関心がおありの方は、とやま国際センター（076-444-2500）までご連絡ください。